

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 5 日現在

機関番号：32634

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370405

研究課題名(和文) 中国近世白話文学におけるテキスト生成の研究

研究課題名(英文) A Study on the Intertextuality of Chinese Drama and Fiction

研究代表者

廣瀬 玲子 (Hirose, Reiko)

専修大学・文学部・教授

研究者番号：90238410

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、宋元以降に盛んになる白話(=口語体)文学のうち特に戯曲(=歌曲を含む中国伝統演劇)を主たる対象とし、作品がどのように既存のテキスト群を受容・統合・変形しているかというインターテクスチュアリティ(テキスト相関性)の様相を具体的な作品について明らかにすることを目的とし、次のような成果を得た。

戯曲の分野では、論文により、元雜劇「緋衣夢」及び『西廂記』のインターテクスチュアリティを明らかにした。小説の分野では、『紅樓夢』等のインターテクスチュアリティを論じた研究書(英語)を翻訳し刊行した。また、中国古典の読解にとって重要な用語についての編著を刊行した。

研究成果の概要(英文)：This research on pre-modern Chinese drama and fiction aims at clarifying the intertextuality, i.e. the interdependence of literary texts. The concept of intertextuality implies that any text is the absorption and transformation of other texts in the past. The study on Yuan courtroom drama Feiyimeng found that the structure of this piece owes several elements to precursors. The study on Yuan drama Xixiangji (Western Chamber Romance) discussed the interaction among the original dramatic text, its revision, and criticism. Additionally, two books were published: a translation of a monograph in English on Hongloumeng (The Dream of the Red Chamber) etc.; and a book on key concepts of Chinese classics.

研究分野：中国文学

キーワード：元雜劇 西廂記 インターテクスチュアリティ 紅樓夢

1. 研究開始当初の背景

(1) 中国白話文学の研究は近代以降、日本の研究者が世界をリードしてきたといっても過言ではない。特に本研究が主たる対象とする戯曲においては、戯曲特有の難解な語彙の語学的研究から深い文学的読解、ひいては読みやすい日本語訳にわたる、基礎から総合に至る各レベルの研究が蓄積されてきた。研究代表者はそれらを継承し、これまでに検討されてこなかった観点や作品について、テキストを精読する方法により考察を重ねてきた。

(2) 中国・台湾・欧米では近年、西洋文学理論を用いた作品分析が盛んになりつつある。しかし、その成果は日本の研究にはあまり反映されていない。もちろん、西洋文学に基づいて考え出された理論が中国文学に適用できるとは限らないが、注目に値する成果が存在することは確かであり、研究代表者はそれらを紹介する機会を探ってきた。

(3) 中国文学の研究はジャンルが細分化される傾向にあるが、白話文学には、長い歴史の中で中国文化が育んできた世界観・人間観・歴史観が溶けこんでおり、その読解にはジャンルを超えた幅広い知識が必要である。作品の基盤には、典故を用いる詩文の伝統のみならず、神話・伝説などの民間伝承や仏教・道教などの宗教的な要素があり、相互に複雑に絡み合っている。それに加えて、過去あるいは同時代の作品による触発を受けて新たな作品が生まれることも多い。以上のような作品レベルと字句レベルの双方におけるテキスト生成プロセスの問題については、研究の余地が広く残っており、研究代表者は、近年、元雑劇を対象としてこの点についての論考を発表してきた。

(4) 最近になって、中国古典文学の分野においても、研究利用に耐える良質な電子テキストが普及してきた。研究代表者は過去に、中国近世白話文学(小説・戯曲)の電子化や学術利用に適した電子テキストのあり方について検討するプロジェクトに研究分担者として参加し、電子テキストの現状や研究利用への可能性及び問題点について認識を深めた。

2. 研究の目的

中国の古典文学はつねに過去及び同時代のテキストを参照し、取りこみ、組合せ、変形することによって新しい作品を生み出してきた。本研究は、宋元以降に盛んになる白話(=口語体)文学のうち特に戯曲(=歌曲を含む中国伝統演劇)を主たる対象とし、作品が成立するにあたってどのように既存のテキスト群が受容・統合・変形されているかというインターテクスチュアリティ(テキスト相関性)の様相を具体的な作品について考

察して、その特徴を明らかにすることを目的とする。ジャンルにとらわれない視野の広いテキスト分析によって、中国独自の世界観や人間観など、従来指摘されてこなかった新鮮なイメージを提示し、中国古典研究に新たな展望をもたらすことを目的とする。

3. 研究の方法

元代の戯曲を中心とする白話文学を対象とし、作品における過去のテキストの受容・統合・変形とテキスト生成のダイナミズム(=インターテクスチュアリティ)を解明するため、以下の方法によって研究を実施する。

(1) 戯曲は、ストーリーのレベルでは歴史書や文言小説に取材し、歌詞のレベルでは同じ「詞曲」ジャンルとされる「詞」や「散曲」の語句を採り入れていることが多い。また、研究代表者が近年研究対象としてきた元雑劇の裁判劇には、ある作品の構造が類型となって別の作品を生み出すという現象が見られる。テキストの精読及び電子テキストの検索機能の利用により、複数の戯曲テキストが構造を共有し、構造内のいくつかの要素を入れ替えたり反転させたりして作品が生成することを示すとともに、そのような戯曲制作の手法の意義を明らかにする。

(2) 明代以降、戯曲の本文に対する注釈・批評を付した版本が出現する。特に『西廂記』には何種類もの注釈・批評があり、それらによって古典としての評価が高まったと考えられる。また、ある批評が出版されると、それに対抗して次の批評が登場し、場合によっては本文テキストまで改変される。最近中国で刊行された「国家図書館蔵西廂記善本叢刊」二集は多数の貴重な『西廂記』諸本を影印したもので、これにより本文テキストや注釈の継承関係などの考察が容易になった。これを購入して利用することにより、戯曲における本文と批評のインターテクスチュアリティを明らかにする。

(3) 戯曲・小説の別を問わず白話文学にはさまざまなジャンルの知が流れ込んでいる。なかには荒唐無稽に思われるような設定もあるが、それらは個人の想像力の産物というよりも、長く民間に伝承されてきたものであり、その背後には中国独特の世界観が潜んでいることも多い。欧米ではこのような現象に対して、インターテクスチュアリティという視点から研究が行われて大きな成果を挙げている。そのなかですぐれた論考を選んで翻訳・紹介し、中国文学研究における文学理論援用の可能性について考察する。

4. 研究成果

(1) 元雑劇の裁判劇の一つ「緋衣夢」は、抄本(=写本)と刊本が伝わり、抄本が古いかたちを残している。刊本が、抄本に存在す

るせりふや場面を省略したために不自然な展開となっていることは、すでに指摘されている。しかし、抄本も一読したかぎりではかなり奇妙な作品である。あたかも、裁判劇に共通する構造に、他の劇に見られる諸要素を無理やり詰めこんだかのような印象を与えるのである。雑誌論文「回復される均衡 元雑劇「緋衣夢」試論」では、「緋衣夢」の構造と、随所に配置されている類型的要素を明らかにし、上演の状況に照らせば、冗漫なせりふや類型的要素の使用も、観客にとってのわかりやすさや娯楽性を重視した結果であるという結論に達した。また、抄本には、死者の魂を超度するという鎮魂の役割が残っていることを示した。本論文は、戯曲における作品間のインターテクスチュアリティ及び作品の生成を論じた研究成果である。

(2) 元雑劇『西廂記』は、明代において元雑劇の古典として重視され、多くの版本が残っている。それら諸本は「国家図書館蔵西廂記善本叢刊」二集の刊行により、容易に閲覧できるようになった。そのうちの一つである明末の版本、槩力 [= くさかんむり + 過] 碩人本は、諸本を参照したうえで本文を改変し、その理由を眉欄に記しており、本劇の当時の享受について多くの示唆を与えてくれる。雑誌論文「槩力 [= くさかんむり + 過] 碩人による西廂記の改編について」は、この本が明代に流行した南曲の形式や文人の道德観に影響を受けつつも、『西廂記』の特徴である大胆な心情表現を保持しようとした改編本であることを明らかにした。本論文は、戯曲における本文と批評のインターテクスチュアリティを論じた研究成果である。

(3) 白話小説として有名な『水滸伝』『西遊記』『紅樓夢』はすべて石から始まる物語である。このことに着目していた研究代表者は、Jing Wang, *The Story of Stone* が古代以来の中国の石伝説を踏まえ、『紅樓夢』以下の3作品を対象としてインターテクスチュアリティを主題とする研究書であることから、本書を翻訳し、訳書『石の物語』(法政大学出版局、2015年)を刊行した。本書は、まず中国のテキストの歴史を遙かにさかのぼって石をめぐる伝説を博捜し、それらを踏まえて三つの文学作品を読解して、インターテクスチュアリティの諸相を明らかにしてゆく。第一章では、中国の文学伝統において、テキスト相関性がむしろ自明のものであったことを示し、この西洋由来の概念を当てはめることの有効性を説く。第二章では、グレアムの構造意味論を援用して、古代以来のさまざまな石テキストを分類し、その意味のネットワークを提示する。以下の各章では、第二章で収集された石伝説に照らしつつ、石を手がかりに白話小説を読解してゆく。第三章は、『紅樓夢』において、名前に玉の文字がつく人物たちが体現する玉のシンボリズム

の考察である。石でありながら石ではない玉そのシンボリズムを、思想的背景に基づいて解明する。第四章は『紅樓夢』を伝統的な文学慣習による制約を異化しドラマ化する作品ととらえ、賈宝玉が石に由来する矛盾を含む存在、リミナル(過渡的)な存在であることを明らかにする。第五章では、『西遊記』の孫悟空について、やはりリミナルな性格をもつトリックスターであることを指摘する。第六章では、『水滸伝』の石碑が天と地を媒介しメッセージを伝達する機能を果たすとともに、物語の構造を支えていることが示される。最後に結びの章では、文学作品のイデオロギー的地平に言及しながらも、テキスト相関性のメカニズムが、過去を存続させると同時に転覆されるものでもあることを述べて締めくくりとする。本書は、白話小説の生成をめぐるスケールの大きなインターテクスチュアリティに関する研究成果である。原書は研究書であるため、読者は主として研究者を想定したが、各種新聞・雑誌に書評が掲載されるなどの反響があった。

(4) 中国の古典の研究は、思想・文学・歴史などの領域に分かれるが、領域を横断することで浮かびあがってくる世界観もある。シリーズ「キーワードで読む中国古典」の一冊である『人ならぬもの：鬼・禽獣・石』(法政大学出版局、2015年)は、中国において人はどのようなものだと考えられてきたのかという問いを、人ならぬものの側から考察する試みである。研究代表者は本書の編者及び著者として、総説・第一章「鬼について」・余説を執筆した。第一章は、鬼(=死者の霊)に関わる思想や文学(小説・戯曲)を、原文を引用して読解し、時代やジャンルを超えて鬼の概念について論じている。文言と白話のちがいを超えたインターテクスチュアリティを対象とした研究成果である。一般向けに平易な論述により、社会に対して成果を発信することができたと考える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

廣瀬 玲子、槩力 [= くさかんむり + 過] 碩人による西廂記の改編について、東洋文化研究所紀要、査読有、第169冊、2016、1 - 21、
<http://hdl.handle.net/2261/59361>

廣瀬 玲子、回復される均衡 元雑劇「緋衣夢」試論、東洋文化研究所紀要、査読有、第166冊、2014、29 - 66
<http://hdl.handle.net/2261/56371>

〔図書〕(計2件)

廣瀬 玲子 他、法政大学出版局、人な

らぬもの 鬼・禽獣・石、2015、1-78、
238-248

廣瀬 玲子訳、法政大学出版局、石の物
語 中国の石伝説と『紅樓夢』『水滸伝』
『西遊記』を読む、2015、419

6. 研究組織

(1) 研究代表者

廣瀬 玲子 (HIROSE, Reiko)

専修大学・文学部・教授

研究者番号：90238410